

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
申請大学名	お茶の水女子大学	申請大学長名	羽入 佐和子
申請類型	複合領域型（横断的テーマ）	プログラム責任者名	河村 哲也
整理番号	T02	プログラムコーディネーター名	古川 はづき
プログラム名	「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成		

## ＜プログラム進捗状況概要＞

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、日本の持続的発展及びより良い世界の実現の一翼を担い、社会が必要とするイノベーションを創出し続けられる理工系グローバルリーダーの養成を目的とする。特に、物理・数学・情報の基盤力を身につけさせるとともに、Project Based Team Studyにより、課題発見、課題解決、協働、プロジェクトマネジメント、多様性理解に関する実践力強化に取り組む。さらに、学修成果の質を保証するために、Qualifying Examination(QE)を導入するとともに、その評価システムを構築し、大学院教育の質保証システムを確立する。

本学の改革構想としては、これまで行ってきた異なった専攻間の融合（専門分野を超えた学際的な学びの機会提供）等による組織改革や教員の意識改革をさらに発展させるべく、グローバル理工学副専攻プログラムを設置し、履修領域と指導体制を特化した5年一貫の博士課程教育を展開する。さらに、教育内容のグローバル化を推進し、国際社会で活躍するグローバルリーダーの育成をめざす。

なお、本学では、女性リーダー育成に関するこれまでの実績を踏まえ、「2020年までに指導的立場に立つ女性の比率を30%に高める」という国の数値目標達成に対し、女性の理工系グローバルリーダーを育成することで貢献していきたいと考えている。

### 2. プログラムの進捗状況

平成25年度は、事業開始初年度ということもあり、本プログラムの全期間にわたる円滑な運用を可能にするための基盤構築（システム、制度構築）に注力した。また、学外との連携や広報活動にも取り組んだ。具体的な進捗状況は下記11点である。

#### 1. 本プログラム運営にかかる組織・制度の整備

- ・本プログラムの実施・運営にあたる組織として、①リーディング大学院推進センター、②リーディング大学院推進センター運営委員会、③リーディング大学院アドバイザー・ボード、④リーディング大学院学生選考委員会、⑤リーディング大学院支援部、⑥リーディング大学院学内評価委員会、⑦スタディコモンズ支援グループ、計7つを設置するため関連規程を整備した。
- ・①、②及び④については、規程に即して組織を設置し、業務・運営を開始した。③及び⑤については、設置を規定する規則を改正中で、運用を規定する

内規の制定及び構成員の選出を準備中である。⑥については、規程に即して組織を設置した。⑦については、⑤の元に設置されるものであり、設置を規定する規則の改正及び内規の制定を準備中である。

## **2. 本プログラム運営にかかる人員の採用**

・本プログラム運営組織である「リーディング大学院推進センター」に所属する特任教員、特任アソシエイトフェロー、アカデミック・アシスタントを採用した。また、「スタディコモンズ支援グループ」に所属する特任教員も採用した。なお、平成26年度以降も、随時、補強予定である。

## **3. 本プログラムにかかるカリキュラム構築**

・本プログラム（副専攻）用に新設した科目を含め、副専攻カリキュラムの構築を行った。カリキュラムの大項目は下記の5分類である。

①イノベーション創成基盤科目 ②グローバルリーダー育成科目 ③PBTS科目 ④研究室ローテーション科目 ⑤アウトリーチ科目

## **4. 本プログラム参加者（博士課程学生）の募集・選抜**

・平成26年2月に選抜試験（書類選考、面接、プレゼンテーション等）を実施し、応募者16名中12名を選抜した。育成は平成26年4月から開始する。

## **5. 教育研究活動に必要な環境整備**

・本プログラムの教育研究を遂行する上で必要な設備（特にPBTS強化を中心に）を購入・設置し、教育研究環境を整えた。

## **6. 連携協定の締結**

・大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構、独立行政法人理化学研究所、独立行政法人国立天文台、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所との連携協定を締結した。

## **7. アドバイザリーボードメンバー予定者との協議**

・採択後、平成25年11月27日（水）に「企業アドバイザリーボードメンバー懇談会 ～イノベーションを創出するのはあなた方、お茶大生です！」を実施した。本プログラムで取り組むべき課題やお茶大が目指すべきリーダー育成教育の方向性についてアドバイスを頂戴した。

## **8. 国内外PBL実施機関の調査**

・国内に関しては、平成25年12月九州工業大学主催「大学院博士課程技術者教育シンポジウム」、平成26年1月北陸先端科学技術大学院大学：大学院教育イニシアティブセンター主催「大学院教育における文化的変容：トランスフェラブル・スキルとアクティブ・ラーニング」、平成26年2月島根大学主催「教学IRシンポジウム」、平成26年2月九州大学歯学部主催「TBLフォーラム in 福岡」、平成26年3月名古屋大学情報連携総括本部主催「Ja Sakaiカンファレンス2014」等に参加し、大学院教育（特にPBL）に関する調査を実施した。

・海外に関しては、平成26年2月にタンペレ大学、ブッパタール大学、ハンゼ大学、イーストアングリア大学、ペンシルバニア州立大学等に、平成26年3月にアカデミックメディカルセンター、ユトレヒト大学、Albany Molecular Research Inc.等を訪問し、PBTS実施に向けた調査を行った。

## **9. 学修支援システムの構築開始と調査**

・学修成果の質保証のために、下記4種類のQualifying Examination (QE) の設計に着手し、評価方法の具体化を進めた。

① initialQE(iQE)・・・選抜試験

② middleQE(mQE)・・・物理・数学・情報各分野の基礎的問題に対するWeb試験

③ periodicQE (pQE)・・・研究の遂行状況、知識に関する国際基準への到達度合いのチェック（6ヶ月に1度のヒアリング）

④ finalQE(fQE)・・・PBTSの成果をまとめた博士副論文審査（プレゼンテーション及び口頭試問）

・平成25年度は、①のiQEを実施し、応募者16名中12名を選抜した。また、②の準備を開始した。

・また、チームポートフォリオ等の学修支援システムの構築に向けた調査を実施するとともに、システム構築に着手した。

## **10. 広報活動の開始**

・平成25年11月より本プログラム広報用HPの稼働を開始した。

・関係大学や企業等に本プログラムの学生募集プログラム案内資料送付やイベント開催通知等、本事業開始に際する協力、支援の依頼を行った。

・本学卒業生、修了生にも本取り組みを広く周知するために、本学 OG データベースを活用し、本事業開始に際する協力、支援の依頼をメールにて行った。

#### **11. キックオフシンポジウム開催**

・平成 26 年 3 月 3 日に「キックオフシンポジウム ～ダイバーシティ社会を牽引する博士人材とは～」と題し、キックオフシンポジウムを開催し、学内外から 141 名が集まった。産学官有識者による基調講演やパネルディスカッションを実施したほか、本プログラム参加者（博士前期課程学生）が副専攻履修に対する意気込みを語った。